

兵庫県立西宮病院におけるバンコマイシン(VCM)血中濃度の低値と関連する患者因子の探索

田中智啓 西窪奈津子
兵庫県立西宮病院 薬剤部

【目的】

抗 MRSA 薬の VCM は治療薬物モニタリング(TDM)が必要な薬物である。兵庫県立西宮病院(以下、当院)では、原則として VCM 投与時に薬剤師が解析ソフトを用いて治療計画を提案しているが、予想通りの血中濃度の達成ができない症例が少なくない。そこで、初回投与設計時における患者背景から VCM トラフ値の低値と関連する患者因子を探索することを目的として検討を行った。

【方法】

2019年3月～2020年12月に当院にてVCMを投与した入院患者のうち、初期投与設計が実施され、投与4回目以降に血中濃度を測定した患者を対象とした(初回トラフ値が $20\mu\text{g/mL}$ を超えている患者、15歳未満の患者、腎代替療法を受けている患者は除外した)。一般病棟とICUの対象患者それぞれで、当該患者を初回TDM実施時のトラフ濃度が $10\mu\text{g/mL}$ 未満の患者(以下、低値群)、および $10\text{--}20\mu\text{g/mL}$ の患者(以下、至適群)の2群について、2群間の比率の比較にはchi-squared testを用い、2群間の平均値の比較にはStudent's t-testを用い検討を行った。

【結果】

一般病棟では、低値群は63人、至適群は70人であり、トラフ濃度はそれぞれ $7.3\pm 1.8\mu\text{g/mL}$ 、 $13.9\pm 2.4\mu\text{g/mL}$ であった。

ICUでは低値群は16人、至適群は9人であり、トラフ濃度はそれぞれ $6.1\pm 3.7\mu\text{g/mL}$ 、 $15.2\pm 2.2\mu\text{g/mL}$ であった。ICUでは低値群では至適群と比較し、eGFRが有意に高かった($P=0.035$)。

【考察・結論】

今回の調査において、ICUでのトラフ低値の独立したリスク因子はeGFRの高値であり、これは過去の文献と一致していたが、一般病棟においては、統計学的に有意な差を認めるものはなかった。

ICUのトラフ低値群では、心疾患の既往歴がある患者数が少なく、心機能低下の有無がトラフ値に影響を及ぼした可能性が考えられる。

本文 671 字 (800 文字)